

2016「地域ブランディング」(試行)実施報告書

1. 目的

本授業の目的は2つあり、「地域の利点、問題、克服するための課題、それら解決策」の鍵となる概念を適切に連結したコンセプトマップを踏まえ、主題提供者に一考の価値ありと判断してもらえるレベルの解決策の提示ができることです。もう一つの目的は、地域課題解決型の学習（Field-problem Based Learning）を複数の学生と協調学習として展開することで、社会牽引人材に必須である「知識を介した他者との関係を構築」する学生のコミュニケーション能力の向上を目指しています。

2. 内容

本授業は、大分市・日田市・玖珠町の各地域・企業の抱える課題をフィールドワークで発見し、ブレインストーミングでアイデアを創出した。次にそのアイデアを実行可能レベルにするため、ステークホルダーの意見を反映しつつ、デザイン思考のフレームワークを持ってまとめた。最終的に、グループ学習により、地域等を活性化させる企画書をA0模造紙2枚作成した。

3. 具体的な到達目標

- 1) 企業の取組に参加して経済の動きと企業の経営戦略等を体験して課題を指摘し、企業自体の魅力発信や提供する商品・サービス企画を立案・提案することができる。(日田市グループ)
- 2) 地域の取組に参加して地域のまちづくりや特色ある産業を体験して課題を指摘し、地域の魅力発信や地域で取り組む企画を立案・提案することができる。(大分市・玖珠町グループ)
- 3) 必要で多様な情報分析から課題や特色を指摘して、課題解決の方策を提案することができる。
- 4) 組織や集団の一員として、他者の考えを受け入れて、自分の考えを他者に受け入れられる建設的な議論をすることができる。
- 5) 組織や社会の一員として、必要に応じた適切な修正や新しい発想を取り入れるなどして持続的な取組ができる。

4. 教材(テーマ)

<大分市>平成31年度完成大分川ダム横の「道の駅」を活用した地域振興策

<日田市>日田 若者に人気のシェアハウスを作るには

<玖珠町>大麦の6次産品化による地域振興

5. 授業の展開

本授業は以下の手順で展開した。

1. オリエンテーション：ステークホルダーによる課題説明
2. フィールドワーク：真の課題の探索
3. グループワーク：真の課題の共有と解決策の提案
4. 中間発表：ステークホルダーによる提案の評価
5. 企画の作成：各地区でフレームワークを変えて行った。

大分市：SOWT分析・四面会議システム・プロトタイプ作成

日田市：ジグソー法等

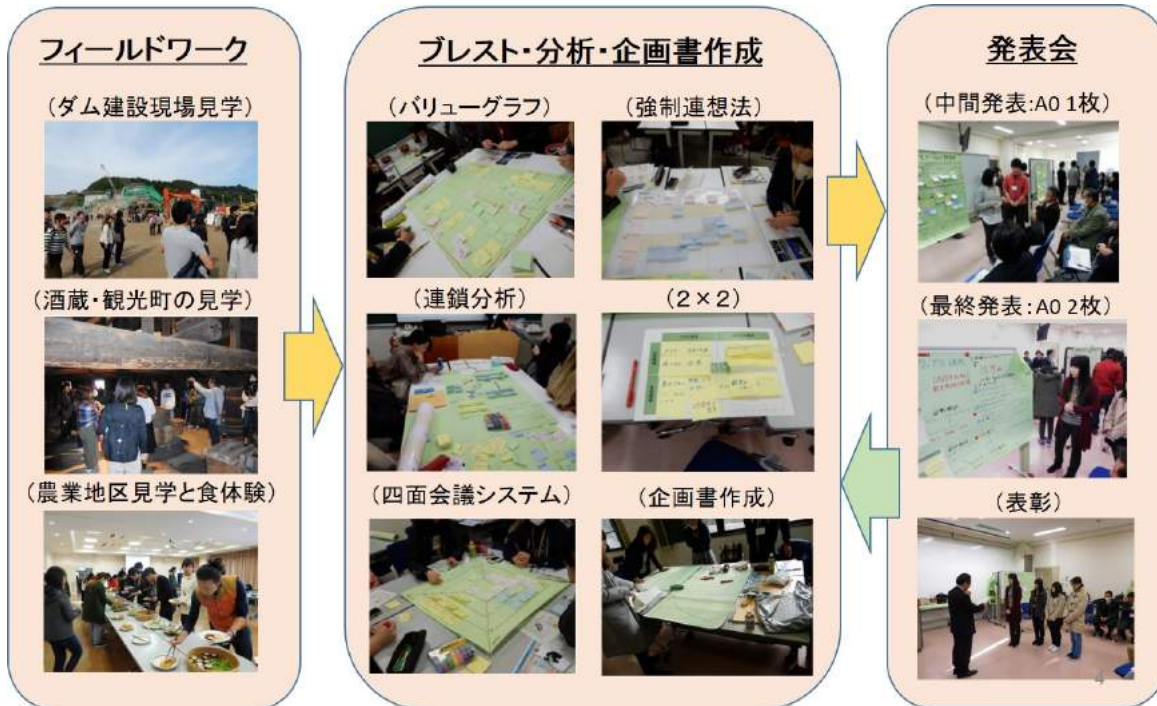
玖珠町：ステークホルダー指導・プロトタイプ作成

6. 最終発表：ステークホルダーによる企画の評価

7. 振り返り：学生による授業のブラッシュアップ（ティーチングポートフォリオ）

チームは学部・学年を混合させ、偏りをなくした。試験的に大分市のテーマに女性だけのチームを編成し、女子力による地域活性の可能性を模索した。

(図：地域ブランディング概要図)



6. 授業実践からの意見

【ステークホルダーからの意見（一例）】

(中間発表)

<大分市>

- 学生らしい視点でおもしろい。○女性ならではの着眼点が面白い。
- 空き家の民泊、学生バスの発想がおもしろい。○大学生が積極的になっている。
- 地域産品を使用するイベント提案発想がよい、おもしろい。

<日田市>

- 「恋愛の聖地」インパクトがあった。
- 相席バーは日田にはないと思うので、若者の定住、少子化対策につながる。
- 高齢者の多い地域に会っているアイデア。
- 「バーチャル日田暮らし」＝体験 おもしろい！
- 外国人（バックパッカー）を視野に入れた点。

< 玖珠町 >

- 若者（大学生）が参加しやすい流れ（若者の意見は宝！）
- 玖珠町グランドデザイン事業に連動してよい。
- 豆腐アイス・非常食のアイデアは素晴らしい。
- 製品開発から販売広報など実現性の高い企画となっている。

(最終発表)

< 大分市 >

- 学生らしいインパクトがあった。○カップル・家族を対象とした取組はよい。
- 実現性の高い面白いアイデアが有る。○良く調べてメニューなどを考えていた。
- 道の駅を拠点にアクセス等トータル的な構成がよかった。
- 行政も課題である米粉にとりくんでいただけて良かった。
- 食フェス等、着眼点が良く調べられていた。

< 日田市 >

- 若者が集まりそうなお洒落な外観や内装、コンセプトが良い。
- コンセプトは捉えられていた。2, 3Fの活用も考えてもらえてよかった。
- 次代を担う子どもたちを対象にしているところがよい。お年寄活用もよい。
- 調査、分析データ（数値）を使用していたのがよかった。バックパッカーを対象にしている着眼点がよかった。和の雰囲気、祭りの体験が味わえるのが日田ファンを増やす有効手段の一つになると思った。
- 地域のイベントを活用してネットでの集客方法等が良かった。日田市以外の人に興味を持っていただき、日田の活性化につなげるアイデアが良かった。

< 玖珠町 >

- 農業にポイントを置いている点。○素晴らしい
- 「伐株山アイス」という具体的な提案
- 玖珠町は農業の町なので農業の活性化に向けた将来像の提案
- 何をどうするか明確で応用がきく。

【学生からの意見：一例】

(振り返りによるティーチングポートフォリオ)

*学生による授業改善案として以下の3項目が上がった。

- ① フィールドワークのタイミング・回数の改善
- ② ステークホルダーとの交流・連携の増加
- ③ 各専門家への相談をしたい（商品開発・法律関係等）

*対応として、平成29年度実施分より以下のことを行う。

- ① フィールドワークの回数を増やし、ステークホルダーとの交流を増加
- ② 経済学部・産学官連携推進機構の教員に協力要請し、専門相談に対応予定。

(アンケート)

- ◇みんなで課題をみつけて解決に取り組めたことが大変よいものとなりました。
- ◇・他学部との交流ができる・地域について知ることができる・別の視点を持つことができ

る・社会人に求められる説得力（どれだけ収支面の現実性が求められるか）を知ることができる点が良かったと思います。

◇学部や学年に関係なく意見を出し合いながら議論ができ良かったです。

◇学生のアイデアが尊重されるので良かったです。

◇自分たちで考え、ちがう学部や学年の人と交流を深め、自分の持っている案や意見を話し合う機会もなかなかないので、そういった点が良かった。

◇実際に利害関係者の方々と話をする機会が設けられており、実現に向けて具体的に検討できたように思います。また、学年を越え、意見を出し合い、お互いを高めあえてよかったです。

◇この授業を通し、玖珠の現状、またこれからについて調べて、現状における課題と解決策は何かを考えました。そして、それらを授業に参加している玖珠班のメンバーでまとめ、そのうえで玖珠の勝手以下につながる商品づくりの提案を行いました。これらの経験から、ヒトに自分の考えを伝える力や複数の人の考えを発表する力が身につく、さらには、地域活性化につながる活動とは何かを学ぶことができました。以上がこの授業よかったです。

◇大分の現状を良く知れる。グループワークなので、コミュニケーション力が身に付く。

◇班に分けて進められたので新しく人と交流ができた。

◇地域活性化について自分たちで考えるのは難しかったが、大きな経験になった。

◇本番の発表までに、班の人と協力して作り上げることができたことが良かった。

◇自ら学び考えることが面白いと思った。

◇今までの講義の中で一番おもしろかった。

◇この授業を通して、自分の成長につながれたと思うので参加して良かったです。

◇難しかったけど、自分達で調べ考えて取り組むことは少し自信につながりました。

7. 授業の効果

本授業の評価は以下の3つ方法で行った。

- ① 学生自身評価（自己チェックシート）
 - ② ステークホルダー評価（審査・コメント）
 - ③ 教員評価（授業中評価・審査）
- ※①③は個人評価、②はグループ評価となる。

(1) 学生自身評価（自己チェックシート※参照資料）

大分類10項目、小分類24項目のルーブリック評価の自己チェックシート（後述）を活用し、授業開始と授業終了後の伸び率を測定した。

24項目分析でレベルが1段階あった事項は以下の通りである。

(大分市)「目標設定」「行動を起こす」「創造力」「話し合う」「完遂」

(日田市)「創造力」

(玖珠町)「情報共有」

(各フレームワークと自己評価の上昇度)

地区	伸び率平均	大分類 (10項目)	小分類 (24項目)
四面会議システム (n=11)		7.7	17.3
ジグソー法 (n=9)		6.3	14.1
ステークホルダー指導 (n=12)		6	13.5

全アクティブラーニング手法で伸びは確認された。その中で、フリーライダーを発生させない「四面会議システム（大分市班使用）」を用いたグループは成長度合いが大きかった。平成29年度では、「四面会議システム」を主軸に授業を展開する。

(2) ステークホルダー評価

1 地区あたり3人以上のステークホルダーで中間発表審査・最終発表審査を行った。中間発表は、「アイデア」「資料」「内容」の項目、最終発表は「新規性・革新性・優位性」「実現可能性・将来性」「表現力」の項目で行われた。

(ステークホルダー審査：満点を100にしたときの点数)

	大分1	大分2	大分3	日田1	日田2	日田3	玖珠
中間発表(点)	76	75	68	66	68	62	78
最終発表(点)	78	67	69	65	58	73	82
合計	154	142	137	131	126	135	160

(3) 教員評価

「課題解決の目標や計画性があるか」「対人基礎力があるか」「ファシリテーション力があるか」「発案力があるか」の点につき、グループワーク中、机間巡視をおこないつつ、3段階評価を行った。また、最終的に①②の評価・出席数等を考慮し、総合的に評価を行った。

8. 具体的な到達目標への到達状況

- ①自己チェックシート基準の伸び率平均は、大分市「0.85」玖珠町「0.7」日田市「0.67」であった。平均1pt以上上がったものは、大分市「6人(60%)」玖珠町「2人(18%)」日田市「2人(25%)」であった。また、平均2pt以上上がったものは、玖珠町で1人いた。
- ②四面会議システムにより大分市グループはレベルが平均的に高くなった。一方、玖珠町はステークホルダー牽引型の授業展開だったため、フリーライダーが発生したが、ステークホルダーの意志を汲み

取れる学生は平均 2pt 以上上がった。

今回は、試験的に行ったが、35%程度の学生が平均 1pt 以上上がった。それに加味して、ステークホルダー評価・教員評価により、最後まで学習したほぼ全学生が到達目標に達したと判断している。平成 29 年度からは、スタートの時にある程度のレベルが確保されるので、より正確に到達率を算出できると思われる。

9. 見えてきた課題と改善点

- ①ステークホルダー指導では、フリーライダーが発生したと考えられる。但し、そのフリーライダーをカバーするように牽引型リーダー人材が生まれている。授業効果の測定結果とリーダー人材輩出の条件は必ずしも一致しないので、今後の検討課題である。
- ②ステークホルダーの審査差が生まれた。職業など背景が異なり、価値観も異なるため発生したと考えられる。地域間で差が激しくなった場合、統計処理施すことを検討する。
- ③各地区 2 人の教員と C O C + C D により審査を行った。大体、同じ評価であったが、机間巡視の個人評価は労力があるため、ミニレポートなどに変更するか検討する。

【補足】

(地域ブランディング)

URL : <http://www.cocplus.oita-u.ac.jp/?cat=32>

(合同新聞記事)

URL : <https://www.oita-press.co.jp/1010000000/2017/05/19/JD0055764305>

【参照資料】

(自己チェックシート)

C O C + 参加大学 日本文理大学より提供された「自己チェックシート」

自己チェックシート		大学名								
		氏名							・研修前 上半分	
									・研修後 下半分	
大分類	小分類	説明	低						高	
考える力	課題発見力 課題の所在を明らかにし 必要な情報分析を行う	情報収集	人に聞いたり、書類やインターネットを用いて必要な情報を得る。	1	2	3	4	5		
		本質理解	思い込みや憶測にこだわらず、客観的に情報分析し、考慮できる。	1	2	3	4	5		
	計画立案力 課題解決のための 適切な計画を立てる	目標設定	ゴールを具体的にイメージし、他人に説明できる。	1	2	3	4	5		
		シナリオ構築	目標に近づくための方法を自分なりに考える事ができる。	1	2	3	4	5		
	実践力 実践行動をとる	行動を起こす	目標達成に向けて、自ら積極的に行動を起こすことができる。	1	2	3	4	5		
		修正・調整	状況や周囲の人の反応を見ながら、柔軟に計画を変更できる。	1	2	3	4	5		
	創造力 新しい価値を生み出す	創造力	異なるものを組み合わせて新しいものを生み出したり、従来のやり方とは違う方法を導いたり、異なる視点から考えたりする。	1	2	3	4	5		
	人とよい関係をつくる力	親和力 豊かな関係を築く	親しみ易さ	初対面の人でも容易に和やかな関係を作る。話しかけられやすい。	1	2	3	4	5	
			気配り	相手の立場になって考える。自然に気遣いができる。	1	2	3	4	5	
			対人興味 共感・受容	相手の話に興味を持ち表情や態度も使って聞くことができる。 相手の感情を受け止め理解していることを態度や言葉で示す。	1	2	3	4	5	
多様性理解			自分と異なる意見や価値観を尊重し、理解しようとする。	1	2	3	4	5		
協働力 目標に向かって協力的に 仕事を進める		役割理解 連帯行動	集団の中で自分の役割を果たしつつ、周囲と協力する。	1	2	3	4	5		
		情報共有	自らすすんで情報を周囲に伝え、周囲からも有用な情報を得る。	1	2	3	4	5		
		相互支援	周囲の状況に気を配り、タイミング良く手助けができる。	1	2	3	4	5		
統率力 場をよみ組織を動かす		話し合う	話し合いの場に積極的に参加し発言する。	1	2	3	4	5		
		意見を主張する	意見が対立しても妥協せず粘り強く主張することができる。	1	2	3	4	5		
		建設的 創造的な討議	議論が活発になるように自ら働きかける。全員に意見を促す。	1	2	3	4	5		
自分自身を伸ばす力		感情制御力 気持ちの揺れを制御する	セルフ コントロール	自分の感情(怒りや焦り、不安など)を冷静に鎮め、表現できる。	1	2	3	4	5	
			ストレス コーピング	落ち込むことがあっても、前向きに気持ちを切り替える。	1	2	3	4	5	
		自信創出力 前向きな考え方や やる気を維持する	独自性理解	自分の長所・短所を把握し、物事に取り組むことができる。	1	2	3	4	5	
			自己効力感 楽観性	何事もやってみないとわからないと、挑戦する姿勢を持っている。	1	2	3	4	5	
		行動持続力 主体的に動き 良い行動を習慣づける	主体的行動	任されたことを自分で判断しながら物事に取り組む事ができる。	1	2	3	4	5	
	完遂		何事も途中で投げ出さない。粘り強く最後までやり遂げる。	1	2	3	4	5		
	遵法性 社会性		社会のルールや人との約束を守る。	1	2	3	4	5		